

■日程：2024年6月19日（水）～6月22日（土）

■ボランティア参加者数：20名

■サロン実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加者数
6月20日（木）	穴水町諸橋地区 諸橋仮設団地	4名
6月20日（木）	穴水町甲地区 兜公民館	21名
6月20日（木）	輪島市町野地区 金蔵集会所	16名
6月21日（金）	輪島市門前地区 禅の里交流館	61名
6月21日（金）	輪島市門前地区 皆月多目的集会所	30名
6月21日（金）	輪島市門前地区 浦上公民館	29名

■被災者の声（主なもの）

- ・甲と諸橋の駐在所がなくなって、機能が穴水署に一括される。
- ・震災ごみの廃棄をしているとき、海外の女性と思われる方からカタコトの口調で「お金あげるから（捨てる物を）ちょうだい」と言われた。自分だけでなく周りも後をつけられ同じことを言われた。
- ・庭の草刈りが大変だが、今年はやらない（やれない）。
- ・公費解体が始まるが、以前と風景が変わってしまうと悲しい。
- ・仮設にいと誰とも話せない。ここに来るとみんなと話せてたのしい。
- ・自分の家は影響がなかった。みんなに申し訳ない。
- ・前回の地震で耐震補強をしたが今回も壊れた。家屋診断をしてもらったが結果に納得できず、2回目の診断を依頼した。
- ・部屋が片付いていない。ボランティアに協力してもらったが2階の荷物を下せていない。
- ・仮設に男性の集える場がなくさみしい。人とのつながりがなくなった。
- ・腰が曲がっている様子をあまり見られたくないからサロンに行きたくない。
- ・仮設入居の優先順位や役所に声を掛けられる方と掛けられない方の差がわからない。家が壊れているが現在も住んでおり、コンパネやブルーシートなどでふさいでいる。
- ・仮設のIHが使いにくい。ボタンが分かりにくく、少し押しただけで点火してしまう。
- ・90代の親と同居しているが、体調が悪い。仮設に行くこともできず家から出られない。
- ・風呂に入っているときに地震が来ることが怖く、今でも入るのが怖い。入るときは扉を少し開けて入っている。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・家族のほとんどが土砂崩れで亡くなった話をされていたが、時間がたったせいか気持ちを消化するような表情で話されていた。
- ・足が悪く参加できない住民にホットケーキを届けた。笑顔が見られよかったと思う。
- ・街中で井戸端会議をしているグループをしばしば見かけた。来訪者には常連が多く、皆仲がよさそうだった。

